

2020年8月18日(火)

老球の細道557号

## 練習の公開

会津バスケットボール協会 室井 富仁

コロナのおかげで何でもかんでもオンラインの名前がつく「新しい生活」が続いている。先日朝日新聞にオンライン会議システム「ZOOM(ズーム)」を使って部活動の練習を保護者に公開している記事が掲載されていた。「山があるのに山梨県」で有名な富士学苑高校の柔道部である。

きっかけは、実はコロナ禍ではなく「練習で上級生が下級生に暴力をふるったことを容認した」との保護者からのクレームに対して、「組み合わせに実力差があり、下級生に恐怖や威圧は感じさせたが、暴力行為はなかった」とする学校側の主張と食い違いがあったので、透明性を高めるために練習公開の必要性に迫られた。

さらに、柔道部のみならず、富士学苑高校の女子バスケットボールも全国大会常連の強豪校であるが、2018年部員への暴言、暴力で監督が解任されている。そのため、スポーツの暴力、ハラスメントは密室性が背景にあるということで、時代は折しも猫も杓子もオンラインの時代、今回このシステムを使うことになったという。

教員や指導者はとかく授業や部活動の練習を他人に見られるのを嫌う傾向にある。私もそうであったが、準備不足で内容のある指導をする自信のない時や一言持っている人たちに口出しされる時などは特に嫌だった経験がある。手紙やFAX、はたまた私の自宅にまで来て批評、批判を受けたことは今でも懐かしい思い出である。

会津高校、坂下高校時代は、すべてにおいて「来るもの拒まず、去る者追わず」のスタンスだったので常日頃から保護者やOBなどが試合だけでなく練習にも見学に来てくれた。必ず椅子を出し、マネージャーがコーヒーの接待をして楽しんで見学してもらうことを常とした。子どもたちの頑張る姿を確認した保護者やOBたちは練習試合や遠征試合まで同行して応援してくれたことは大きな励みだった。

私は色々な人たちに練習を見てもらうことが好きだった。多くの人の目があると言葉や態度に注意する。そして見に来ている人たちが驚くような練習、楽しめるような練習を考え、準備しようという意欲もわいてくる。現在行っている講習会などはその最たるものである。

講習会の中に居眠りをしている指導者がいたり、スマホばかりいじっている保護者などを目にしたときは、明らかに私の練習がつまらなく退屈であることの証明である。この年になると、誰も私にアドバイスをしたり、面と向かって批判してくれる人はいない。だから、こうした無言のボディ・ランゲージで反省し、自己満足に陥らないように注意している。

かつて見学した中村和雄氏率いる共同石油(現JX)チームの練習は、見ている方が緊張感満載で、次から次へとする練習のアイデアに時間を忘れ、あっという間に3時間が終わっていた。いつかそのような講習会、公開練習をやりたいものである。